・・・パラオ「Belau National Hosupital」へ訪問して・・・ (2018.3.22)

パラオの気温は、1年を乾季(11月~4月)・雨季(5月~10月)に分けられます。日中の気温は、30℃を超えますが夜には26℃と過ごしやすくなります。島の周囲を海風が通り抜けるため涼しいぐらいに感じます。しかし紫外線は、日本の8倍と強く日焼け止めは必需品です。何と言ってもパラオの財産は、綺麗な海と自然に囲まれていることでしょう。とにかく海にゴミもなくとても綺麗です。oneactivityniより違いますが、海に出るにはPermit Fee(許可手数料)を\$50払います。それにより、海の環境(出国時には環境税\$30が課せられます)が守られています。

病院訪問では、日本人歯科医師のsupportにより保健省の大臣(現役の外科医)とお会いさせていただきました。今までのボランティア活動(ケニア、ネパール、フィリピン)について説明させていただきました。とても、光栄なことに大臣自ら、病院内を案内していただきました。リハビリ室、検査室、レントゲン室(CTなど)、手術室、外来など一緒に回らせていただきました。入院は100床あり、精神科もありました。歯科診療ブースも見学させていただきました。外来では、初診が\$20かかり、診療費は所得により比率が違うとのことです。歯科診療ブースにtuberculosis予防のポスターがあり、尋ねたところ、人口約2万人(パラオ約1万6千とフィリピン、バングラデシュの人々です)の国で感染がoutbreakすれば国が滅びかねないと話されました。また、病院長と副病院長ともお会いしてお話しすることができました。

日本人歯科医師のおかげで次回の訪問時の段取りに向けて話が進んだことは、感謝、感謝、感謝致すところです。次回、訪問のためにローカルな宿泊施設や食事所を案内していただきました。

パラオには、海や自然の他にもう一つの顔があります。戦跡(第二次世界大戦)の一部を巡ることができました。3年前に天皇陛下が訪れた、激戦地のペリリュー島(コロール島からモーターボートで約1時間)の南端にある「西太平洋戦没者の碑」に手を合わせることができました。また、コロール島の日本人陸海軍戦没者のお墓にお線香をあげることがでました。

如何なることがあっても戦争はいけません。世界の人々が 平和でありますように。

もともとパラオ語には、ないものが多くあります。例えば、 日本語の「だいじょうぶ」はパラオ語でも「だいじょうぶ」と 言います。パラオの人は、それは日本が真似したんでしょ う。と言うようです。また、「はり・きゅう」という言葉も知って いる人もいて、日本語の多くが浸透していることに驚きまし た。

パラオの人々の優しさ、日本の魂を感じる訪問になりました。

ありがとうございます。

中野朋儀





















